甲南大学法科大学院入学試験問題について

2018年度春入学
一般入学試験（C日程・2月18日分）

試験科目：憲法

1.出題趣旨
【第1問】
憲法の重要判例の正確な理解を基にして、類似事例について、共通点と相違点に留意しつつ、考察できるかどうかを問う問題である。設問1で、参照すべき最高裁判例を挙げ、判例の基礎知識を示すこと、設問2で類似事案について検討することを求めている。
本問は、国歌国旗起立斉唱強制事件（最判平成23年5月30日など)を素材とした。判例は合憲の判断を下しているが、その理由の1つとして、学校の卒業式における国歌の起立斉唱が慣例上の儀礼的な所作であることが挙げられている。そうだとすると、教員が起立斉唱しないことが責められるのは、教員の有する思想の故にではなく、儀礼的な所作を拒否することによって卒業式という式典の雰囲気を壊すからだと言える。
Xの戒告処分を不当だと主張するには、本問でXは起立しており、体育館全体を見渡す限りで、国歌を歌わなかったことは気づかれない状況だった点を指摘すれば良い。Xは、式典の雰囲気を壊すような行為をしたわけではない。歌うことまでを求めるのは「式典の雰囲気を壊すな」という以上の要求、すなわち思想的な強制がある、などと主張することが考えられる。
【第2問】
統治分野の基礎知識を問う問題である。

（以下、第1問について）
2.採点実感
設問1で、ピアノ伴奏事件を挙げている答案が多かった。
判例は「間接的な制約」となることを指摘しているが、この点に触れている答案がほとんどなかった。

3.学習方法
法曹を目指す人は判例学習をおろそかにすべきではない。判例は、判決等の論理だけでなく、事実の概要を踏まえて分析、理解、暗記する必要がある。